

平成26年6月3日（火）

文化行事

「松村組10名による和太鼓演奏会」

日本古来の芸能文化である和太鼓の持つ響きを身体で感じ、心に刻むことで、生涯にわたり日本の文化や音楽に興味・関心をもち続け、親しむ心を育てることを目的とし、全校生で楽しい時間を過ごしました。



篠笛やマリンバとともに・・・

曲「青龍」「ハヤテ」「鳳」「神戸発」など演奏ごとに、楽器の紹介をいただきました。一番大きな和太鼓は、樹齢50年ほどのけやきの木をくりぬいて、牛の皮を張って出来ていることなど学びました。

代表生徒16名が和太鼓演奏を体験しました。体育館に響きわたる程の大きな声を出し、威勢良くて姿が観る人を魅了させました。

（生徒感想より）

最後の曲、「神戸発」は、東北の被災地で演奏されました。僕も演奏を聴いていると感動して泣きそうになりました。

プロになるために苦勞された道のりを聞いて、自分の壁を乗り越えられるほど努力しないと道は開けないと思いました。

本物にふれることの大切さを感じました。大人になる前に多くの本物と出会うことで、自分の価値観が変わると思うからです。お腹だけでなく、身体全体に響きわたるあの力強さやゆっくりたたっている時のわくわくする感じ、完全に引き込まれました。

和太鼓は、その時の自分の気持ちが音として出ると聞き、確かにそうだなと思いました。（中略）和太鼓で、お金をもらうのは難しいということが印象に残っています。チケットを買ってもらって、次も来てくれるという保障はどこにもありません。お客さんに来てもらうために何をしたらいいのか考える必要があったと言っていました。言葉では言い表せないほどの努力をして演奏しているのだと思うとすごいなと思いました。今回、学んだことは「諦めずに夢を追いかければ、いつか叶う」ということです。僕も、そういう生き方がしたいです。

「チャンスを自分の方にとっつかまえてきた。」という話は、本当に自分の心にぐっときました。そんなチャンスのつかみ方があったのだと気づかされました。私も、これからやって来るだろうチャンスを自分から必死につかみ取っていきたいです。

